

# 地域リハビリテーション支援センターだより

(神奈川県リハビリテーション支援センター)

平成 29 年 6 月 発行 NO- 6 0

地域リハ支援センター



平成 29 年度 リハビリテーション専門研修始動

## 「股関節症のリハビリテーション」



### 手術療法から保存療法 オーダーメイドの治療を提供

女性に多い股関節症。ひとくちに股関節症といっても、原因も症状もさまざま。股関節の状態のみならず、その方の職業、生活、年齢から適した治療法を選んでいきます。

股関節症による影響は体全体に及ぶことも多いため、手術する場合、しない場合いずれにおいても理学療法（リハビリテーション）が大切です。

### 股関節症の理学療法 「美しく歩く」を目指して



手術で股関節が良い状況になっても、歩く姿勢が改善しない方もいます。体のバランスが整った時に、はじめて「美しく歩く」ことができます。個々の方に合わせて体のバランスを整えていくための、評価と治療について講義と実技を交え学びました。  
(平田 学)

【講師】 神奈川県リハビリテーション病院 医師 杉山 肇

理学療法科 森田融枝 小曾根龍一 相馬光一

# 今年も多数開催！ 春のハンズオンセミナー



## セラピストのためのハンドリング入門(4月22日開催)

一日を通して、臨床で使えるハンドリング技術について学習しました。ハンドリングの基礎となるセラピストの構え、動き方、そして触れ方については、タッチの刺激量、人を動かす時の特性、上肢と体幹・下肢との関係、上肢とバランスの関係など、実技を通して体感し理解を深めました。

【講師】 神奈川県立保健福祉大学 教授 玉垣 努氏  
 神奈川リハビリテーション病院 理学療法科 浅沼 満 田代 宙  
 【実技指導】 神奈川リハビリテーション病院 作業療法科 吉澤拓也

## 脳血管障害の評価と治療(5月20日開催)

漠然としたリハではなく、生活課題に向けたアプローチができることを目指し、活動参加につなぐための成人片麻痺者の運動療法をテーマに学習しました。対象者の問題を視覚的だけでなく、評価治療実習を通して感じることも利用し捉える重要性を学びました。またグループワークで相互にコミュニケーションをとり、理解を深めました。



【講師】 Fリハビリテーション平塚 藤井善行氏  
 【実技指導】 神奈川リハビリテーション病院 理学療法科 鍋島香峰子

## 摂食・嚥下障害のリハビリテーション(5月26日開催)



嚥下障害の医学的な評価と治療、そして摂食嚥下障害者に対する姿勢や呼吸の関わり方について学習し、実技や体験を通して、咀嚼、飲み込みの姿勢と摂食嚥下活動の関係性、呼吸について理解を深めました。車椅子姿勢の見方や修正の仕方、介助方法など明日から即実践できる内容が盛りだくさんの研修でした。

【講師】 耳鼻咽喉科 伊藤裕之医師  
 【実技指導】 神奈川リハビリテーション病院 理学療法科 小泉千秋

(一木 愛子)

## 今後の研修予定

申し込み・お問い合わせはこちらから

地域リハ支援センター



機能訓練指導員研修		6月28日(水)29日(木)	機能訓練指導員など
高次脳機能障害セミナー	小児編	7月1日(土)	教育・医療・福祉関係者など
脊髄損傷のリハビリテーション	理解編	7月5日(木)	医療職・介護職など
脊髄損傷のリハビリテーション	ロボット編	7月5日(木)	医療職・介護職など
脳血管障害のリハビリテーション	下肢装具編	7月8日(土)	ケアマネ・相談支援専門員・OTなど
PT・OTのための土曜教室		7月~11月の土曜日 月1回開催	PT・OT
高次脳機能障害セミナー	理解編	8月26日(土)	限定なし

## リハ専門相談 相談支援編

# ご本人の思いと環境のバランス

前号でもお伝えしましたが、リハ専門相談は「地域の支援者を支援する二次支援機関」として、地域の支援者から電話等でいただいたリハビリテーションに関する相談に対して、内容に応じて助言・訪問等を行うことで、総合相談・情報提供・技術支援を行っています。その窓口はソーシャルワーカーになりますが、今回は相談を受ける中で留意していることをお伝えします。

そもそもリハビリテーションは、疾病や怪我、加齢等によって今まで出来ていたことが出来なくなった方に、その人らしく希望した生活が具現化できるようにお手伝いすることです。そこには、残存している機能を十分に発揮していただく手法と、本人が過ごしやすい状態に環境（本人に関わる人やモノ）を合わせていく手法があります。

ご本人たちの多くは自分自身が努力することで自立(Independent)した生活を望む方が多いのですが、実は私たち自身もすべてが自立しているわけではなく、どこかで他者から支えられることで自律(Autonomy)した生活を営んでいる側面もあります。1960年代アメリカのIL運動での有名な言葉に「人の助けを借りて15分で衣服を着て仕事に出かけられる人間は、自分で服を着るのに2時間かかるために家にいるほかない人間より自立している(エドワード・ロバーツ)」とあります。これは、自立(他者に頼らず自分で頑張る)だけではなく、自律(誰かから支えてもらう)を上手に組み合わせることで自己実現できることが増えていく可能性を述べていると思います。しかし、実際に支援をしていると、ご本人がこのような「自立と自律の組み合わせ」という思いに辿り着くまでには様々な体験を経ることが必要となり、年単位の時間を要します。その間に、家族や支援者が焦ったり先走ったりせず、ご本人が様々な経験を積む中で納得して自律の必要性を実感できるように、共に伴走していくことが肝要だと考えています。

そのようにご本人の思いに寄り添いつつ、日々の生活を支えていく家族・支援者(人的環境)とともに、モノ(物的環境)についても多くの種類があります。家具等の活用・配置換えといった生活環境の工夫、車いすや上下肢装具のように身体機能を補完・代替し長期間にわたり継続利用する補装具、リフターや情報・通信支援用具といった日常生活上の困難を改善し自立や社会参加を促進する日常生活用具や、住宅改修等があります。どこまでご本人の機能を活用することで対応することが出来て、どこからは人的・物的環境で支えていくのか...そのバランスについて、ご本人の思いや考えを中心としつつ、家族や支援者の意見も取り入れながら、(将来も見据えつつ)現時点で考えられる選択肢を提示していくことが、私たちの役割となります。

今後も当便りで、具体的な事例を紹介していきますので、ご期待ください。

(瀧澤 学)

## H29年度 4～6月リハ専門相談実績(6/15時点)

4～6月(6/15時点)	新規	継続	電話	訪問	来所
脳性麻痺	6	7	8	3	2
神経・筋疾患	4	9	9	3	1
脳血管障害	7	7	14	0	0
脊髄疾患	4	3	6	1	0
脊髄損傷	2	1	2	1	0
骨関節疾患	2	2	4	0	0
後天性脳損傷(除CVA)	4	3	6	1	0
知的障害	5	8	10	3	0
内部疾患	0	0	0	0	0
その他(切断・加齢等)	5	0	5	0	0
合計	39	40	64	12	3

4～6月(6/15時点)	訪問	来所
補装具・福祉用具機器	6	3
環境整備	0	0
身体機能評価	3	0
ADL指導	0	0
訓練プログラム指導	1	0
介護指導	0	0
支援内容検討	2	0
医療	0	0
その他	0	0
合計	12	3

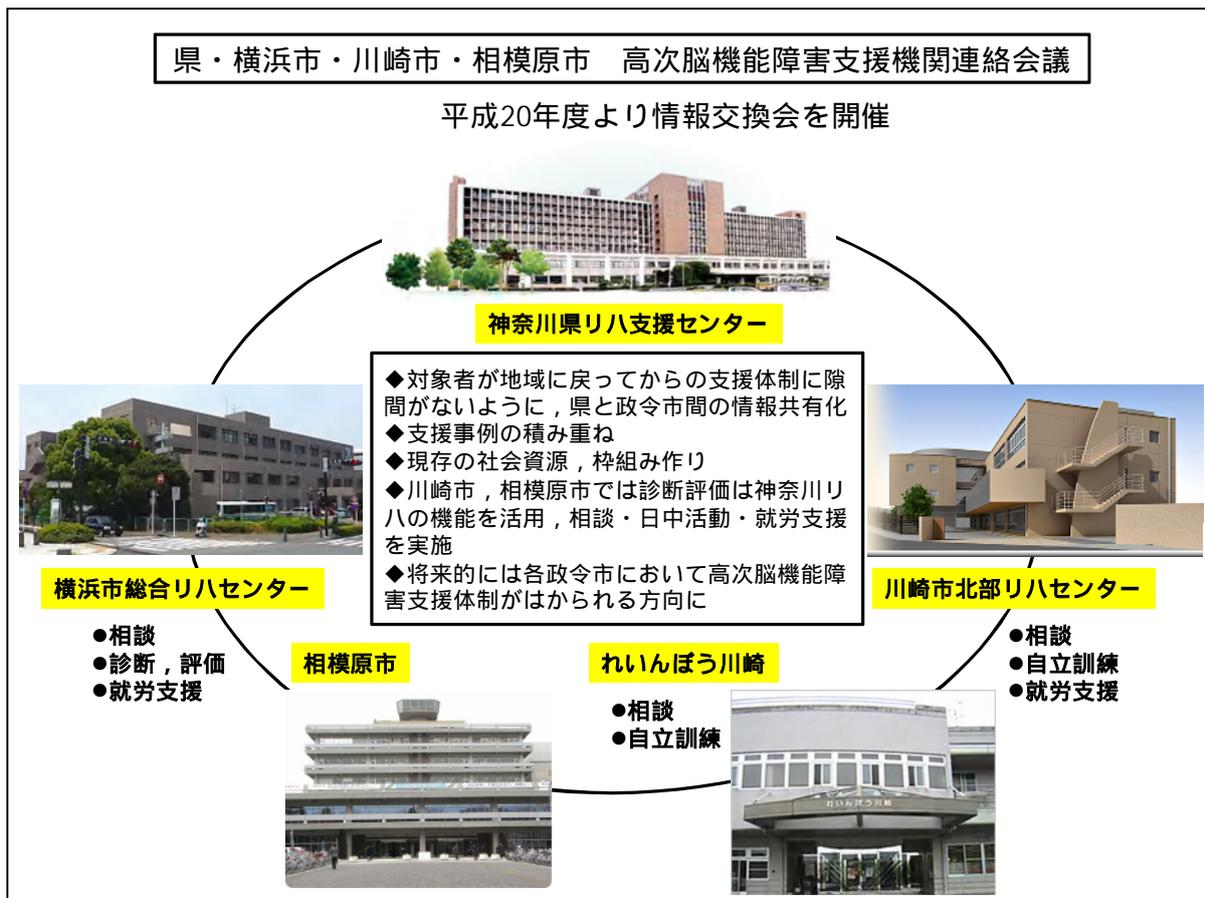
2017年度

# 第1回政令市と神奈川リハの情報交換会

平成29年5月26日に相模大野のユニコムプラザ相模原にて、政令市と神奈川リハの情報交換会を行いました。県の障害福祉課、横浜市総合リハビリテーションセンター、川崎市（北部リハビリテーションセンター、れいんぼう川崎、中部リハビリテーションセンター）、相模原市（障害政策課、かわせみ会）の担当者の方に参加をしていただきました。

今回は、平成28年度の事業報告、平成29年度の事業計画のほかに、当事者・家族会、支援者向けの研修の開催、医療機関との連携、相談支援や通所等について情報交換を行いました。高次脳機能障害の支援において、地域で支援を展開していただき、神奈川リハがバックアップ機能としての役割を果たせるような支援体制を考えております。今年度から、地域の通所機関での課題等を把握するために、障害福祉サービスの通所機関にコンサルテーションとして伺い、地域でも利用できるプログラムを検討していく予定です。

このような情報交換会を通して、支援体制や社会資源の情報共有を行い、神奈川県全体で抜け目のない支援ができるよう、今後も努力していきたいと思っております。今年度2回目の情報交換会が12月にありますので、機会があればまたご報告させていただきます。（佐藤 健太）



編集後記：梅雨に入り雨が少ない日が続いています。7月は集中的に降るのでしょうか。8月は昨年度より猛暑になると聞いています。当事業団の病院の新築工事に伴いリハ研修を6月・7月・9月・10月に集中させました。暑さに負けないように研修会と専門相談を進めていきます。水分補給忘れず暑さを乗り切りましょう。（泉 忠彦）

社会福祉法人神奈川県総合リハビリテーション事業団  
地域リハビリテーション支援センター  
〒243-0121 神奈川県厚木市七沢5 1 6  
TEL：046-249-2602 FAX：046-249-2601